

高齢期における食生活管理能力の実態(第2報)

【目的】前報に続いて、高齢期における食生活管理について、管理行動と生活意識から実態を捉え、管理行動の中の「食事作り」に注目して検討する。本報では、地域による違いを捉えて検討をする。

【方法】調査対象は前報と同様に、首都圏と地方圏に居住する男女573名に対して面接調査を行ったものである。調査期間も同様に、1994年8月から1996年3月にかけて実施したものである。調査内容も同様に、食生活管理行動を「食べ方」「食事作り」「料理の組み合わせ」「暮らしとのつながり」項目とし、これに対する回答を5から0点に得点化し、合計得点が高い者ほど管理行動が良好と見なして結果を分析した。

【結果】①60歳を境にした地域別と年齢別についての傾向を捉えた。②全体の傾向として、首都圏より地方圏の方に、食生活管理行動の良好な傾向が見られた。③「食べ方」「食事作り」項目において、首都圏よりも地方圏の方に、食生活管理行動の良好な傾向が見られた。これに対して「料理の組み合わせ」項目においては、首都圏の方が地方圏よりも食生活管理行動の良好な傾向が見られた。④食生活管理行動が良好な者ほど自覚的健康感も高いという傾向は、地方圏において60歳以上にのみ見られた。⑤食生活管理行動が良好な者ほど生きがい感も高いという傾向は、地方圏において60歳未満に見られ、首都圏においては60歳以上にのみ見られた。⑥食生活管理行動が良好な者ほど生活満足度も高いという傾向は、地方圏において60歳未満に見られ、首都圏においては60歳以上にのみ見られた。